

第 41 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時:平成 28 年 10 月 28 日(金)16 時 30 分～18 時

会場:東北大学災害科学国際研究所1階 多目的ホール(仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1)

テーマ:地域連携の実相

1. 16:30-16:50 (発表 20 分)

タイトル:「なぜ感染症対策に地域連携が必要なのか」

報告者: 児玉栄一(災害医学研究部門 災害感染症学分野)

「One World One Health」という概念はヒト・動物・環境は相互に関連することを意味する。新型インフルエンザウイルス、エボラウイルスなどの例からもこの概念は感染症対策にぴったりである。グローバル化された現在、世界的規模での対応が急務であるが、今回は演者の地域医療・都市医療・大学病院、そしてメディカルメガバンク機構での医療経験から、地域から世界規模に対して何ができるのか、考察してみたい。

2. 16:50-17:10 (発表 20 分)

タイトル:「文化財防災にむけた地域連携の展望」(仮)

報告者: 天野真志(人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野)

文化財防災は、自然災害に代表される諸要因から地域の歴史文化保護するための取り組みであり、地域に伝来する歴史資料の災害対策に向けた体制的な取り組みが進められている。特に 東日本大震災以降、多発する自然災害に対応する広域連携体制のあり方が提起されているが、個人宅伝来の地域歴史資料を想定した防災対策として、どのような連携が想定されるのか、東日本大震災とその前後における取り組みをとおして、連携体制のあり方を展望する。

3. 17:10-17:30(発表 20 分)

タイトル:「仙台防災枠組み実現に向けてアジア地域における学術連携と科学技術導入への展望」(仮)

報告者: 泉貴子(情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス)

「仙台防災枠組」は、科学技術の防災への導入、学術の防災への積極的参加を呼びかけており、その実現のため、アジア地域では様々な取り組みが始まっている。8 月には UNISDR が第一回アジア科学技術防災会議をバンコクで開催し、「仙台防災枠組」実現のために、学術機関がどのような活動を行うべきかをまとめた成果文書を作成した。実際に、アジアの国々での科学技術の防災への貢献はどのように進んでいるのか? 11 カ国の例を基に、現在の科学技術と防災の連携について整理する。

全体質疑応答(17:30-18:00)

司会:川島秀一(人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野)